

氏名 _____

メイプル工業(株)は、製品 M を単一工程にて連続生産している。製品原価の計算は、実際単純総合原価計算を採用し、月末仕掛品の評価方法は先入先出法を用いている。なお加工費に関しては、公式法変動予算による予定配賦を行っている。以下の資料にもとづき各問に答えなさい。

【資料】

1. 生産に関するデータ

月初仕掛品	2,400 個 (50%)
当月投入	11,100 個
投入合計	13,500 個
正常仕損	500 個
月末仕掛品	3,000 個 (40%)
完成品	10,000 個

(注 1) () 内は加工進捗度である。

(注 2) 原料はすべて工程の始点で投入されている。

(注 3) 正常仕損は工程の途中で発生(発生点不明)しており、月初仕掛品の作業とは関係なくすべて当月着手分から発生している。

(注 4) 正常仕損品には 1 個あたり 300 円の処分価額があり、主として原料の価値から生じている。

2. 金額に関するデータ

月初仕掛品原価	;	原料費	2,208,000 円、	加工費	1,076,400 円
当月製造費用	;	原料費	9,902,000 円、	加工費	9,390,000 円

3. 予定配賦に関するデータ

年間加工費予算	;	変動費率	3,300 円/時間、	固定加工費	64,800,000 円
基準操業度(配賦基準は直接作業時間)	;		14,400 時間(年間)		
当月実際直接作業時間	;		1,150 時間		

問 1 仕掛品勘定を作成しなさい。なお貸方の [] には、原価差異、仕損品、売上原価、製造間接費の中から適当なものを選び記入すること。

仕 掛 品		完 成 品	
月初仕掛品	()	完成品	()
当月製造費用		[]	()
原料費	()	月末仕掛品	()
加工費	()		
	()		()

問 2 加工費の予定配賦による予算差異と操業度差異を答えなさい。なお、不利な差異には△を付すこと。

予算差異 円 操業度差異 円